

R2年度 指定管理者導入施設 管理運営評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒ふるさとミュージアム			
所在地	生駒市山崎町11番7号			
指定管理者名	株式会社 地域文化財研究所	指定期間	開始日	平成 30 年 4 月 1 日
利用料金制適用区分	利用料金制		終了日	令和 5 年 3 月 31 日
選定方法	公募	評価実施年	指定期間 5 年のうち 3 年目	
設置目的	生駒の歴史を標榜し、市民のみなさんが過去・現在の生駒を思い、未来の都市像を予測して頂くための施設の設立			
主な実施事業等	常設展示、企画展示、特別展示、体験型普及啓発事業、講座、講演会、資料の収集・保存・調査・研究・教育普及等			

2 利用実績

利用区分等	単位	予定(計画・目標)	利用実績	対前年度比	増減の理由等
来館者数 大人	人	-	4,683	-1,145	
来館者数 子ども	人	-	1,617	-89	
来館者数 合計	人	10,000人以上	6,300	-1,234	
館外事業参加者数	人	1,000人以上	474	-66	
多目的室利用	件	350件以上	152	-126	

3 事業収支

		事業計画	事業報告(実績)	(参考)前年度実績
収入計	A	29,239,000	29,084,490	28,428,180
指定管理料		28,083,000	28,083,000	27,583,000
利用料金収入	C	140,000	89,590	153,800
自主事業収入		500,000	555,970	399,530
その他(受講料・観覧料等)		516,000	355,930	291,850
支出計	B	29,039,000	28,642,061	27,843,596
指定事業費		28,739,000	28,263,229	27,479,749
うち人件費	D	12,000,000	11,942,591	11,313,751
うち再委託料	E	3,462,000	3,423,583	3,402,512
自主事業費		300,000	378,832	363,847
事業収支	A-B	200,000	442,429	584,584
利用料金比率	C/A	0.5%	0.3%	0.5%
人件費比率	D/B	41.3%	41.7%	40.6%
再委託費比率	E/B	11.9%	12.0%	12.2%
補足説明(必要に応じて記入)				

※人件費(D)及び再委託料(E)は主な支出内訳のため、DとEの合計額が指定事業費にはなりません。

4 利用者の意見把握状況

利用者の意見把握の実施の有無	有	実施方法	(利用者アンケート)・意見箱の設置・その他()
実施結果	意見内容等		対応実績等
	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの結果を活用した展示(生駒町役場について) フィールドワークを伴う現地見学 		<ul style="list-style-type: none"> 企画展「生駒町役場再現展」では、ミュージアムが役場だった頃の議場を再現し、当時の様子を資料とともに振り返った。 「生駒の歴史と文化入門講座」で伊古麻都比古神社と行基ゆかりの竹林寺本堂、境内にある行基墓と忍性墓を訪ねる現地見学会を行った。

5 管理運営状況評価

施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	「生駒ふるさとミュージアムの管理に関する基本協定書」、「生駒ふるさとミュージアム管理運営基本仕様書」、「生駒ふるさとミュージアム管理業務特記仕様書」に基づき、事業を実施している。令和2年度においては、コロナ禍の影響による臨時休館や施設の利用制限、感染防止対策など、市との協議をふまえた管理運営を行った。また、専門業者による燻蒸作業を行い、古文書等の収蔵資料にかかる保存管理を行った。
市の評価	基本協定書及び管理運営基本仕様書に基づき、歴史文化の発信拠点としての各種事業のほか、当該施設が登録有形文化財であることに配慮した維持管理が行われている。令和2年度は、コロナ禍による影響を大きく受けたが、感染防止対策を確実にしながら施設の設置目的に沿った事業を展開され、一定の成果がみられたことを評価している。
市民の平等な利用の確保（平等な利用への配慮、公平で適切な利用者の決定等）	
指定管理者による自己評価	広報いこまちのほか、当館HPやSNS(Twitter、Instagram、Facebookなど、情報発信ツールを最大限活用し、イベントや講座の年齢層に適した告知を行った。また、夏休み前には勾玉・土笛体験のチラシを市内小学校全児童に配布し、過去一番多い勾玉・土笛体験の来館に繋げる事ができた。
市の評価	子ども連れの来館者も増え、幅広い年齢層にご利用いただける施設運営に取り組まれている。また、施設の利用制限により講座等は受講者数をこれまでの半数としていることでご意向に沿えない方もおられる中、ご理解を求めながら平等・公平性に配慮した対応をいただいている。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	来館者には通常アンケート、特別展・企画展観覧者、講演会受講者からの様々な意見・要望を取り入れるため、各種アンケートを行っている。通常アンケートの展示についての満足度は「大変満足」35%「満足」52%、合計87%と高い評価をいただいた。「生駒の歴史と文化入門講座」の開催が今年度で5年目となる。申込日から定員に達する期間が短いと、定員数を増やすことはできないかとの意見も出ているほど、人気が非常に高い。〈満足度〉「大変満足」「満足」の合計と〈今後の参加〉はともに80%以上で、昨年度に引き続き高い評価を維持している。特別展、企画展を含むミュージアム講演会は〈満足度〉「大変満足」「満足」の合計が80%となり高評価であった。館内展示及びスタッフに対する満足度は「大変良い」57%、「良い」30%、合計87%という高い評価をいただくことができた。講座のアンケートにいただいた意見の中で、取り上げることが可能なものについては、積極的に企画に反映した。レファレンス業務については、市民から毎月数件の質問があり、その都度概要の説明や関連資料の紹介、必要に応じて資料のコピーを提供するなどし対応した。
市の評価	通常期の来館者だけでなく、特別展・企画展の観覧者にもアンケートへの協力をこれまで以上に積極的にお願いくることで、多数の評価やご意見をいただけたことは、今後の事業展開に大いに参考となるものである。引き続きアンケートの回収率の向上と多様な意見の集約を行うとともに、設問の設定の工夫により、さらに効果的な活用に向けたアンケートに実施を検討いただきたい。また、「大変満足」の割合もさらに向上するよう、引き続き、展示内容の質の向上にも努められたい。レファレンス対応は丁寧にしていただいております。今後も市民に生駒市の歴史や文化についての知見を高めていただける事業の継続とともに、スタッフの専門性を発揮できるよう、日々の調査研究にも力を入れていただきたい。
経費の縮減等の効果（効率性）	
経費の縮減等（経費縮減の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	作業体験室や多目的室等の空調のこまめな調整、使用者のいない部屋やトイレの節電、温水機器の節電モードなどの日々の省エネ活動のほか、裏紙の再利用や古ファイルの再利用等、光熱水費・消耗品費の削減を積極的に行っている。
市の評価	日々の施設運営にあたって光熱水費や消耗品費等の削減に継続的に取り組んでいただいている。経費の削減だけでなく、施設の設置目的を達成するための事業費（講座や展示、広報活動等）については必要な経費をしっかりと充当し、来館者の満足度を高められるよう、今後もメリハリのついた経費執行をお願いするとともに、費用対効果をさらに高めることができる事業展開をお願いしたい。

収入の増加（収入増加の具体的な取組、効果等）

指定管理者による自己評価

より多くの方に来場いただけるよう、講座や講演会のほか、企画展や特別展についてもテーマを工夫して実施した。コロナ禍による影響を受けたものの、企画展や特別展では、前年度比9割の来場を得ることができ、収入の増加につながった。また、夏休み期間中には、勾玉・土笛体験の申込が過去で一番多く、今年度初めて企画した企画展示室ホラー展示の相乗効果もあり、親子連れでの来館者も増え、新規の来館者獲得に繋がり、ミュージアムを知ってもらえるきっかけとなった。

市の評価

臨時休館後もなかなか来館者数が伸びない時期が続いたが、夏休み期間中における多数の親子連れでの来館に加え、秋季特別展、冬季企画展では、前年度に近い来館者数を得たことは、企画力によるところが大きいものと考えられる。その結果、コロナ禍にあって前年度を上回る収入を得られたことも高く評価できる。また、収入増だけでなく、多くの新規来館者があったことは、ミュージアムの認知度向上につながる大きな成果である。引き続き、魅力ある事業や多様な媒体による情報発信等により、リピーターの増加にもつながる事業展開を期待したい。

適正な施設の管理運営（適正性）

施設の管理運営の状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）

指定管理者による自己評価

学芸員の交代にともない、新たに着任した学芸員に対して接遇研修やコンピューター研修等を随時行った。定期的に館長を中心に学芸員のミーティング等を行い、ミュージアム内の情報の共有を図るため、作業マニュアルを作成した。

広報活動については、広報いこまちやSNSに加え、新聞各社やメディアでの広報活動を積極的に行った。夏休みのホラー展示や特別展、企画展は読売新聞や毎日新聞、朝日新聞、奈良新聞の日報紙に掲載していただき、奈良テレビでも取上げていただいた。SNSではLINEトラベルでミュージアムの紹介をしていただいた。

環境行動の取組状況については、SDGs推進課が行っている「環境行動取組データ」を日々作成し、3か月ごとに提出している。

地域との連携については、ボランティアの方々には企画展展示等のお手伝い、中止となったお正月イベントの代わりに配布した餅花の作製、獅子舞の動画制作を行っていただくほか、月1回ボランティア会議で意見をいただきながら、ボランティアの方々との連携を図り、当館の事業をともに盛り上げていただいた。

市の評価

学芸員はミュージアムの取組の核となる存在であり、専門性や個性を生かした魅力的な企画や良質な調査研究を進めていくためにも更なる資質向上に取り組まれない。ボランティアについては、コロナ禍における活動には一定の制約もあると考えるが、講座や体験事業、イベント開催時等、各事業におけるサポートをお願いするだけでなく、活動意欲を高めていただくような働きかけをさらに進めるとともに、新規ボランティアの獲得にも積極的に取り組まれない。

自主事業の取組（施設の有効活用による市民サービスの向上への効果等）

指定管理者による自己評価

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ミュージアムの一大イベントである「お正月イベント」が中止となったが、継続性を持たせるため、お正月の風物詩である餅花を作り配布した。開催についての問い合わせも多数あり、地域に根付いたイベントになってきている事を実感した。夏休み子ども学芸員プロジェクトとナイトミュージアムは、厳しい条件の中であったが実施することができ、ナイトミュージアムは昨年度よりも5倍多い参加人数であった。夏休みの勾玉・土笛体験は過去一番多い数となり、リピーターに加えて初めて来館した方が多く、ミュージアムを知ってもらえるきっかけとなったことは大きな成果であると考えられる。また、博物館の社会的役割の一つである博物館実習の受け入れを行い、座学と実習のプログラムを実施した。

コロナ禍で実施できるイベントは限られるが、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどのSNSを使った発信に力を入れ、少しでもミュージアムと触れ合える事業を展開していきたい。

市の評価

コロナ禍で各種イベントの開催が難しい中、夏休み期間中にはホラー展示を新たに企画され、大人気の勾玉・土笛づくり体験との相乗効果で、夏休み期間において過去最大の来館者数が得られたことは大きな成果であり、ミュージアムの認知度向上は今後のリピーターにもつながるものであり、高く評価できる。イベント開催には一定の制限はあるが、コロナ禍でも安全に実施できることを工夫され、柔軟な発想で魅力的な事業を増やしていただけることを期待している。

安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）

指定管理者による自己評価

講座の申込等で収集した個人情報の取扱いなど、「生駒市個人情報保護条例」を遵守し、業務を行っている。事故発生時の緊急連絡体制・事案については「危機管理マニュアル」に基づき、スタッフで共有し、有事に備えている。また、講座や講演会の定員を半数にするとともに、来館者の手指消毒、検温、履き終えたスリッパのアルコール消毒など、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、来館者の安全に配慮した管理運営を行った。

市の評価

個人情報保護・管理については条例を遵守しながら取り組まれており、引き続き細心の注意を払いながら取り組んでいただきたい。新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応についても市との協議をふまえ、来館者の安全を最優先に丁寧に行われており、安心してご利用いただける施設管理に取り組まれている。各種災害に対する備えについては、危機管理マニュアルのスタッフへの周知徹底や定期的な見直しを行うなど、常に意識しながら有事に備えていただきたい。

サービスの安定的な提供（安定性）	
事業収支（自主事業を含む）の状況（事業収支の妥当性、安定的な事業継続等）	
指定管理者による自己評価	
	継続的な経費削減、事業内容に応じた参加費の設定等により、黒字の収支となった。今後も施設本来の目的達成に向け、安定的な運営と質の向上を図りながら、来館者から高い満足度を得られるよう努めたい。
市の評価	
	コロナ禍の影響はあったものの、特別展や企画展の一定の来館者数を維持できたことや、自主事業の盛況により収入増となったことは高く評価できる点である。今後、新規来館者をリピーターにつなげられるよう、事業の企画実施にかかる質の向上や、専門性を深めるための調査研究の維持など、安定した事業継続に必要な事業費の執行を引き続きお願いしたい。

6 指定管理者の財務の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産	37,388,855	37,751,523	68,790,311
流動資産	33,228,456	33,366,665	65,015,900
固定資産	4,160,399	4,384,858	3,774,411
負債	27,308,391	30,934,033	64,726,970
流動負債	23,904,391	10,269,033	9,134,970
固定負債	3,404,000	20,665,000	55,592,000
純資産	10,080,464	6,817,490	4,063,341
資本金	3,000,000	3,000,000	3,000,000
売上高	113,257,176	96,840,096	86,568,785
経常利益	2,347,275	-3,125,676	-2,426,972

7 指定管理者の経営状況（財務・資産関係指標）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
自己資本比率 純資産/資産×100	27.0%	18.1%	5.9%
負債比率 (流動負債+固定負債)/純資産×100	270.9%	453.7%	1592.9%
固定比率 固定資産/純資産×100	41.3%	64.3%	92.9%
流動比率 流動資産/流動負債×100	139.0%	324.9%	711.7%
固定長期適合率 固定資産/(純資産+固定負債)×100	30.9%	16.0%	6.3%
総資産回転率 売上高/資産×100	302.9%	256.5%	125.8%
総資産経常利益率 経常利益/資産×100	6.3%	-8.3%	-3.5%

8 総合評価等（今後の業務改善に向けた考え方）

指定管理者による自己評価

企画展や特別展等のテーマの工夫だけでなく、前年度のモニタリング結果をふまえて事業費の見直しを行い、より充実した展示内容となるよう重点的に配分するなど、満足度の高い事業実施に向け、できることから取り組んだ。コロナ禍の中、年度初めから約1ヶ月半の臨時休館となったが、再開後の春の発掘調査速報2020「生駒の歴史解明最前線」や夏休みの「ホラー展示」を新たに企画し、来館者の増加につながるよう努めた。新年度に向け常設展示室を大きくリニューアルし、エントランスではクリスマスツリー、百人一首、雛人形の展示など、季節に合わせたミニ展示を行った。出前授業は前年度よりも参加校が1校増加し、学芸員が民具を携えて小学校へ出向き、生駒の暮らしの移り変わりや昔の道具について説明を行い、興味を持ってもらえるよう工夫した。今後も、積極的に周知を行い、子どもたちに地域の歴史文化を伝えていきたい。今後の展示においても来館者に生駒の歴史文化をわかりやすく説明し、郷土愛を育み、ミュージアムが親しみ愛される場所となるよう努めていきたい。

コロナ禍の中で施設運営を取り巻く環境は非常に厳しいものであったが、小学校への時宜を得た広報活動による夏休み期間中の体験事業や、魅力ある企画展等の実施により、新規の来館者を含め、幅広い年代の方に多数来館していただけたことはミュージアムの認知度を高めるうえでも大きな成果であったと考える。館外事業である市内小学校への出前授業では、子どもたちに生駒の歴史を知ってもらうことで地域への愛着や関心を持ってもらう機会ともなり、今後も積極的な働きかけをお願いしたい。

また企画展・特別展については、考古や民俗、古代から近現代まで、バランスよくテーマや時代を設定し、より多くの市民に興味や関心を持って新たな生駒を発見していただけるような企画を期待している。そのためにもスタッフが専門性やアイデアを活かせるよう、調査研究や資質向上に取り組める環境の確保を引き続きお願いしたい。さらに、今後、ミュージアムの魅力向上やファンの拡大に向け、ミュージアムと歴史好きの市民とのつながりをもっと増やし、事業実施に力を貸していただけるような関係性の構築にも力を入れていただけることを期待する。